

## 利便性と安全性の両立をめざして

総合情報基盤センター センター長 黒田 卓  
(人間発達科学部 教授)

クラウドという言葉が、新聞、雑誌で普通に目にするようになりました。スマホや PC を購入して、最初のセットアップを行うと、必ずクラウド型ストレージサービスを利用するかどうか聞かれるでしょう。新たにハードディスクやメモリーを購入する必要もなく、ネットワーク上に簡単に保管できるため、利用している人も多いでしょう。しかしながら、保管されたデータはどこまで守られているのでしょうか。データ流出、データの所在など心配に思いながら使っている人も多いのではないのでしょうか。

昨年末、PC やスマホ等でよく利用されている日本語変換ソフト(日本語 IME)が、変換効率を上げるためにクラウドサーバと通信を行っていたことが話題になりました。同様のしくみをもつサービスには、オンライン翻訳サービス、フリーの Web メールなどもあります。最近ではワープロやグラフィック関係のソフトウェアなども、クラウドサービスとしてネットに接続して利用するしくみに変わってきています。クラウドサーバに蓄積されたデータは、どのように使われているかわかりません。重要な研究データや学生の個人情報などを扱う場合、これらサービスの利用には十分な注意が必要です。

もう一つ、昨年度情報セキュリティ関係で話題となった事案に、さまざまな情報機器に対する外部からの不正アクセスがあります。プリンタやコピー機、無線 LAN のルータ、ハブ、ネットワーク接続ハードディスク等のネットワーク機器、テレビなどの家電製品も、多くがネットワークに接続されています。これらの多くは、設定等を Web からおこなうようになっています。つまり、これら機器は、実はコンピュータであり、Web サーバなのです。通常、OS やサーバソフトはファームウェアとよばれる特殊なソフトウェアの中に含まれています。パソコンの OS やウイルス対策ソフトの定義ファイルの

アップデートには注意している人も多いと思いますが、実はこれら機器のファームウェアもアップデートが必要です。また、これらの取扱説明書などはネットで公開されているため、管理者初期パスワードはすぐに分かります。PC だけでなくこのような機器も含めて、パスワードをきちんとつけて管理する必要があります。個人や研究室でお使いのパソコン等も、利用者一人ひとりが責任を持って管理してください。

研究室や、研究プロジェクトでサーバ等を立ちあげられている方も多いかと思います。外部から管理者権限でログインが可能になっていたりと、簡単なパスワードで運用していたりしたことで、不正侵入を許してしまった事例もありました。標的型メールも増えてきています。安易にパスワード等を外部に漏らすことの無いように注意してください。

総合情報基盤センターでは6月末の竣工の予定でデータセンター棟の整備を進めています。データセンター棟には、研究室等で管理されているサーバ等を設置して運用いただくためのスペースも整備する予定です。また、平成26年度末には情報システム、基幹ネットワーク機器の更新を予定しています。現在運用している仮想サーバホスティングサービスやオンラインストレージサービスなどの強化も予定しています。科研費や外部資金等による期限付きの研究プロジェクト等でサーバ等の運用が必要な場合、ハードウェアを用意すること無くご利用いただけます。また、研究プロジェクト等でデータの共有等が必要な場合にご利用いただけるデータ共有サービスの導入も検討しています。教職員、学生の皆さんの教育、研究・業務での情報システム・ネットワーク利用の利便性と安全性のより一層の向上にむけて少しずつ歩みを進めて参ります。みなさまのご支援とご協力をお願いいたします。